

さとうきび増産に向けた取組の実績及び評価

沖縄県南大東島

増産プロジェクトにおける令和5年産生産計画の達成状況及び今後の取組状況

生産計画の達成状況等

1 令和5年産の生産実績

	収穫面積 (ha)				単収 (kg/10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計
H28年産実績	78	181	912	1,170	12,131	8,732	8,242	8,577	9,467	15,776	75,140	100,383
H29年産実績	64	183	935	1,183	6,552	4,891	4,903	4,991	4,220	8,961	45,865	59,045
H30年産実績	46	209	948	1,203	9,308	7,031	7,196	7,248	4,295	14,694	68,192	87,181
R元年産実績	62	221	991	1,274	11,742	7,645	8,041	8,151	7,221	16,896	79,703	103,820
R2年産実績	54	169	1,073	1,297	12,050	7,352	8,108	8,174	6,520	12,455	87,023	105,998
R3年産実績	44	196	1,062	1,302	9,144	6,162	6,202	6,296	4,044	12,071	65,853	81,968
R4年度実績	54	173	1,093	1,320	10,607	6,092	6,443	6,569	5,779	10,549	70,422	86,750
R5年増産計画	69	221	950	1,240	9,200	5,100	5,300	5,481	6,348	11,271	50,350	67,970
R5年増産実績	33	172	1,116	1,320	7,526	5,145	8,829	5,367	2,463	8,829	59,578	70,869
(対計画比%)	(47.4)	(77.7)	(117.5)	(106.5)	(81.8)	(100.9)	(166.6)	(97.9)	(38.8)	(78.3)	(118.3)	(104.3)
(対前年比%)	(60.6)	(99.2)	(102.1)	(100.0)	(70.9)	(84.4)	(137.0)	(81.7)	(42.6)	(83.7)	(84.6)	(81.7)
R7年産増産計画	150	250	850	1,250	6,100	5,400	5,200	5,300	9,100	13,500	44,200	66,800

2 その他指標の動向 令和4年産→令和5年産

・株出栽培の割合

82.8%

→

84.5%

・さとうきび作農家戸数

256戸

→

262戸

・平均糖度

13.4度

→

14.3度

増産目標に対する位置づけ	令和5年産 生産計画及び実績については、以下のとおりであった <table><tr><td></td><td>収穫面積</td><td>単収</td><td>生産量</td></tr><tr><td>(計画)</td><td>1,240ha</td><td>5,481kg/10a</td><td>67,970t</td></tr><tr><td>(実績)</td><td>1,320ha</td><td>5,367kg/10a</td><td>70,869t</td></tr></table> 令和5年の生産目標は、収穫面積1,245ha、単収6.0t/10a、生産量70,650tを計画し、実績では、生産面積1320ha、反収5.3t/10a、生産量70,869tとなった。 生産目標に対し、単収のみ目標値の88.3%と若干下回ったが、収穫面積及び生産量は目標を達成することが出来た。単収目標も未達成については干ばつ及び干ばつに伴う渇水が主な要因であった。 令和6年産は、増産目標を71,990tと設定し、干ばつ対策、病虫害防除等の肥培管理の徹底を引き続き呼びかけていく。		収穫面積	単収	生産量	(計画)	1,240ha	5,481kg/10a	67,970t	(実績)	1,320ha	5,367kg/10a	70,869t
	収穫面積	単収	生産量										
(計画)	1,240ha	5,481kg/10a	67,970t										
(実績)	1,320ha	5,367kg/10a	70,869t										
課題	① 除草管理不足は場が病虫害発生源となっているため、管理指導を行う必要がある ② 大型機械化一貫作業体系が進む中、有機質のほ場への還元が必要である ③ 干ばつ時の水源確保 ④ 畑地の主要土壌が国頭マージで地力の低い強酸性となっており、生産向上には酸度矯正や堆肥の導入などによる土壌改良が必要												
令和5年産における取組方針	主なさとうきび生産振興策として ① 酸度矯正や堆肥の導入などによる土壌改良資材の投入 ② 株出複合管理機の有効活用による単収の向上 ③ ハリガネムシの交信かく乱及び雑草除去や病虫害防除指導 ④ 水源確保のための自然池の整備、全ほ場がかん水を行えるようなパイプラインの工事												

(1) 経営基盤の強化

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																																						
①効率的な さとうきび経営 の育成と労働 力の確保	【実施した取組】 ・株出複合管理機の導入	・高齢化による点滴チューブの設置、撤去の業務委託の確立が求められる ・GPS等の機能を活用できるオペレータを育成し、早期植付を行う ・機械士協議会を中心に、農業機械士養成研修等に積極的に参加させ、オペレータの育成に努める																																																						
	【目標の達成状況】 <table><tr><td></td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R元</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td></tr><tr><td>認定農業者</td><td>85</td><td>89</td><td>90</td><td>92</td><td>92</td><td>94</td><td>64</td><td>62</td></tr><tr><td>農業法人</td><td>6</td><td>7</td><td>6</td><td>3</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td></tr></table>			H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	認定農業者	85	89	90	92	92	94	64	62	農業法人	6	7	6	3	9	9	9	9																											
			H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5																																														
	認定農業者		85	89	90	92	92	94	64	62																																														
農業法人	6	7	6	3	9	9	9	9																																																
【課題】 ・春植えの植え付け作業においての人材が不足し、早期植え付けの遅れが懸念される ・高齢化により点滴チューブの設置と撤去が難しくなっており、干ばつ対策に遅れが生じている																																																								
②農業共済制度への加入促進	【実施した取組】 ・多くの生産農家の共済への加入により自然災害への対策が図られている	・今後も継続して農家へ収入保険制度の周知を徹底し、今後の自然災害への経営対策を促す																																																						
	【目標の達成状況】 <table><tr><td></td><td>H28 (29年産)</td><td>H29 (30年産)</td><td>H30 (R元年産)</td><td>R元 (R2年産)</td><td>R2 (R3年産)</td><td>R3 (R4年産)</td><td>R4 (R5年産)</td><td>R5 (R6年産)</td></tr><tr><td>加入戸数 (戸)</td><td>168</td><td>152</td><td>135</td><td>122</td><td>90</td><td>90</td><td>71</td><td>61</td></tr><tr><td>戸数引受率 (%)</td><td>70.0</td><td>63.1</td><td>54.0</td><td>48.2</td><td>35.2</td><td>42.1</td><td>27.7</td><td>23.9</td></tr><tr><td>引受面積 (ha)</td><td>943</td><td>857</td><td>745</td><td>596</td><td>447</td><td>448</td><td>358</td><td>296</td></tr><tr><td>面積引受率 (%)</td><td>79.7</td><td>71.2</td><td>58.5</td><td>45.9</td><td>34.3</td><td>49.8</td><td>27.5</td><td>22.4</td></tr><tr><td>共済金額 (千円)</td><td>719,826</td><td>682,751</td><td>561,843</td><td>546,029</td><td>488,795</td><td>404,563</td><td>-</td><td>-</td></tr></table> 注) R4、R5 年産の数値については概算値			H28 (29年産)	H29 (30年産)	H30 (R元年産)	R元 (R2年産)	R2 (R3年産)	R3 (R4年産)	R4 (R5年産)	R5 (R6年産)	加入戸数 (戸)	168	152	135	122	90	90	71	61	戸数引受率 (%)	70.0	63.1	54.0	48.2	35.2	42.1	27.7	23.9	引受面積 (ha)	943	857	745	596	447	448	358	296	面積引受率 (%)	79.7	71.2	58.5	45.9	34.3	49.8	27.5	22.4	共済金額 (千円)	719,826	682,751	561,843	546,029	488,795	404,563	-	-
			H28 (29年産)	H29 (30年産)	H30 (R元年産)	R元 (R2年産)	R2 (R3年産)	R3 (R4年産)	R4 (R5年産)	R5 (R6年産)																																														
	加入戸数 (戸)		168	152	135	122	90	90	71	61																																														
戸数引受率 (%)	70.0	63.1	54.0	48.2	35.2	42.1	27.7	23.9																																																
引受面積 (ha)	943	857	745	596	447	448	358	296																																																
面積引受率 (%)	79.7	71.2	58.5	45.9	34.3	49.8	27.5	22.4																																																
共済金額 (千円)	719,826	682,751	561,843	546,029	488,795	404,563	-	-																																																
【課題】 ・1戸当たりの平均収穫面積が8haを超え、20ha以上の農家も少なくなく、掛金の負担が大きいため加入率の低下が懸念される																																																								

(2)生産基盤の強化

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																			
①気象災害に強い生産基盤の整備	【実施した取組】	・すべてのほ場がかん水できるわけではないため、干ばつ対策として、自然池から貯水地へのパイプライン設置工事を行いそこからほ場へ繋げる ・早期植付・肥培管理等を行い、梅雨時期に生育を促し、自然災害への被害軽減に繋げる ・セーフティネット事業で被害回復に努める																																			
	・新植及び夏期のかん水に対し防災無線等で呼びかけを行った																																				
	・早期植付・肥培管理等を行い、梅雨時期の生育を促進した																																				
	【目標の達成状況】																																				
	(単位:%)																																				
	<table><tr><td></td><td>H28 実績</td><td>H29 実績</td><td>H30 実績</td><td>R元 実績</td><td>R2 実績</td><td>R3 実績</td><td>R4 実績</td><td>R5 見込</td></tr><tr><td>ほ場整備率</td><td>47.8</td><td>49.6</td><td>51.1</td><td>51.8</td><td>51.8</td><td>51.9</td><td>51.9</td><td>51.9</td></tr><tr><td>水源整備率</td><td>25.3</td><td>25.3</td><td>26.5</td><td>27.8</td><td>27.8</td><td>27.8</td><td>27.8</td><td>27.8</td></tr><tr><td>畑地かんがい整備率</td><td>12.2</td><td>12.2</td><td>12.2</td><td>12.2</td><td>12.2</td><td>12.2</td><td>12.2</td><td>12.2</td></tr></table>		H28 実績	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 見込	ほ場整備率	47.8	49.6	51.1	51.8	51.8	51.9	51.9	51.9	水源整備率	25.3	25.3	26.5	27.8	27.8	27.8	27.8	27.8	畑地かんがい整備率	12.2	12.2	12.2	12.2	12.2	12.2	12.2	12.2
	H28 実績	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 見込																													
ほ場整備率	47.8	49.6	51.1	51.8	51.8	51.9	51.9	51.9																													
水源整備率	25.3	25.3	26.5	27.8	27.8	27.8	27.8	27.8																													
畑地かんがい整備率	12.2	12.2	12.2	12.2	12.2	12.2	12.2	12.2																													
	【課題】																																				
	・かん水資材等の設備投資に負担が大きく、また設置や撤去の労働力の低下により稼働率が低下																																				
	・干ばつの際かん水できないほ場の収量低下																																				
	・早期植付を推進しているが、製糖終了の遅れなどにより、肥培管理や春植の遅れに伴う被害増が懸念																																				

②機械化一貫 体系の確立	【実施した取組】 ・大型機械化収穫一貫体型が確立され、新品種導入への対応なども進んでいる ・ここ数年では収穫後に概ね1週間以内に株出し複合管理機による受託作業が定着しており、早期管理で単収の向上にもつながっている 【目標の達成状況】 (単位: 台、ha、%) <table><tr><th></th><th>H28</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R元</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr><tr><td>ハーベスタ 稼働台数</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>23</td><td>28</td><td>24</td><td>26</td><td>21</td></tr><tr><td>ハーベスタ 収穫面積</td><td>1,162</td><td>1,182</td><td>1,202</td><td>1,273</td><td>1,297</td><td>1,302</td><td>1,321</td><td>1,320</td></tr><tr><td>ハーベスタ 収穫率(面積)</td><td>99.3</td><td>99.9</td><td>100.0</td><td>100.0</td><td>100.0</td><td>100.0</td><td>100.0</td><td>100.0</td></tr></table> 【課題】 ・収穫機械の老朽化により新規導入が必要だが、価格高騰により購入が厳しい状況である ・運搬車の老朽化により新規導入が必要だが、国内で4WDの8t限定トラックは特殊な車両のため、新規購入が困難 ・運転免許の制限があるため新たなトラック運転手を雇用することが困難		H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	ハーベスタ 稼働台数	22	23	24	23	28	24	26	21	ハーベスタ 収穫面積	1,162	1,182	1,202	1,273	1,297	1,302	1,321	1,320	ハーベスタ 収穫率(面積)	99.3	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	・単収や地区を考慮した上で中型機械と大型機械をうまく使い分け、可能な限りほ場内の収穫ロスを軽減する ・製糖期等の繁忙期における労働力を生産農家から確保し対応する ・機械士協議会を中心に、農業機械士技能向上研修等に積極的に参加させ、オペレータの育成に努める
	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5																														
ハーベスタ 稼働台数	22	23	24	23	28	24	26	21																														
ハーベスタ 収穫面積	1,162	1,182	1,202	1,273	1,297	1,302	1,321	1,320																														
ハーベスタ 収穫率(面積)	99.3	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0																														
③地力の増進	【実施した取組】 ・製糖工場からのバカスケーキやトラッシュ等をほ場へ還元 ・堆肥投入等を積極的に推進し、ほ場の地力の増進を図った ・土地改良事業において、島外から堆肥を導入することで、堆肥不足を補った 【課題】 ・バカスケーキの投入について散布費の農家負担が大きい ・夏植面積が減少していることで、植付までに土壌改良が可能なほ場が少なくなっている ・島内には畜産農家が殆どなく、島内産の堆肥確保が出来ない	・工場からのバカスケーキやトラッシュ等の投入を計画的に行えるよう検討する ・かぼちゃ等の野菜との輪作体系を推進し、夏植面積増加を図る ・バカス、トラッシュ、危険木等を破碎した木材チップ、水草を活用した土壌改良材の投入を行う																																				

(3) 技術対策

①病害虫対策	【実施した取組】 ・ハリガネムシの交信かく乱による防除を継続した ・メイチュウ類・ガイダー・バッタ等の適期防除及び除草の徹底を呼びかけた 【課題】 ・メイチュウ類については被害が収まらない状況なので、対策が急務である ・農薬による防除も推進しているが、価格高騰により農家の負担が年ごとに増えている ・ハリガネムシの密度軽減が進む中、交信かく乱事業の継続が必要である	・交信かく乱による事業は継続が必要であり、国・県へ要望をした上で、防除に対する農家の意識向上を徹底させる ・ハリガネムシフェロモンチューブの防風林帯等へのドローン散布を検討する ・病害虫大量発生時に大型防除機での害虫防除を行う																																																															
②優良品種の選択・普及	【実施した取組】 ・製糖工場を中心とした高収量、早期高糖性品種の選抜 ・種苗管理センターからの種苗を配布することで、優良種苗の増殖を普及 【目標の達成状況】 (単位:%) <table><tr><td></td><td>H28 (実績)</td><td>H29 (実績)</td><td>H30 (実績)</td><td>R元 (実績)</td><td>R2 (実績)</td><td>R3 (実績)</td><td>R4 (実績)</td><td>R5 (実績)</td></tr><tr><td>F161</td><td>7.9</td><td>5.4</td><td>3.9</td><td>3.1</td><td>2.1</td><td>0.8</td><td>0.4</td><td>0.4</td></tr><tr><td>農林15号</td><td>3.4</td><td>2.2</td><td>0.7</td><td>2.0</td><td>0.2</td><td>－</td><td>－</td><td>0.1</td></tr><tr><td>農林26号</td><td>12.5</td><td>10.3</td><td>9.7</td><td>7.7</td><td>7.6</td><td>7.0</td><td>6.4</td><td>5.8</td></tr><tr><td>農林27号</td><td>0.3</td><td>1.6</td><td>2.7</td><td>6.7</td><td>14.1</td><td>20.7</td><td>25.7</td><td>30.3</td></tr><tr><td>農林28号</td><td>28.8</td><td>22.9</td><td>18.5</td><td>15.1</td><td>12.3</td><td>12.5</td><td>10.0</td><td>8.2</td></tr><tr><td>RK97-14</td><td>－</td><td>18.0</td><td>28.1</td><td>31.7</td><td>31.8</td><td>26.0</td><td>24.1</td><td>22.7</td></tr></table> 【課題】 ・作付品種割合について、複数品種への分散による自然災害に対する被害軽減が必要 ・株出しを12月に収穫した時に高糖性及び低温発芽性を発揮する品種の改良 ・新品種の適正を見極めていく必要がある		H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	F161	7.9	5.4	3.9	3.1	2.1	0.8	0.4	0.4	農林15号	3.4	2.2	0.7	2.0	0.2	－	－	0.1	農林26号	12.5	10.3	9.7	7.7	7.6	7.0	6.4	5.8	農林27号	0.3	1.6	2.7	6.7	14.1	20.7	25.7	30.3	農林28号	28.8	22.9	18.5	15.1	12.3	12.5	10.0	8.2	RK97-14	－	18.0	28.1	31.7	31.8	26.0	24.1	22.7	・引き続き品種構成の検討を行い、品種の分散化による自然災害の軽減に努める ・RK97-14が普及拡大しているが、リスク分散のためにも、ほ場にあった品種の推進・更新を行う ・原種ほ設置事業の活用により種苗の確保を維持していく
	H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)																																																									
F161	7.9	5.4	3.9	3.1	2.1	0.8	0.4	0.4																																																									
農林15号	3.4	2.2	0.7	2.0	0.2	－	－	0.1																																																									
農林26号	12.5	10.3	9.7	7.7	7.6	7.0	6.4	5.8																																																									
農林27号	0.3	1.6	2.7	6.7	14.1	20.7	25.7	30.3																																																									
農林28号	28.8	22.9	18.5	15.1	12.3	12.5	10.0	8.2																																																									
RK97-14	－	18.0	28.1	31.7	31.8	26.0	24.1	22.7																																																									

③栽培技術の普及等	【実施した取組】 ・株出複合管理機の利用促進による増産指導 ・土壌分析専門家による土作り等の栽培技術の普及 【課題】 ・気象条件により生産量が大きく左右され、栽培技術の普及、向上だけでは対応出来ない場合がある ・直近の5年平均が豊作であったことから、慢心による対策遅れが懸念される ・土壌診断をする農家が少ないため、必要性を伝え推進していく	・早期植付・肥培管理・適期の害虫防除等を徹底指導することで、自然気象災害等への被害軽減に努める ・土壌診断の必要性を伝え推進していく
------------------	---	---